日本遺族通信

令和5年9月15日
第873号

一般財団法人日本遺族会
〒102-0074東京都千代田区九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話　03－3261－5521
振替　00160-6-25389
編集発行人　盛川英治
毎月1回15日発行
定価　1部130円（税込）

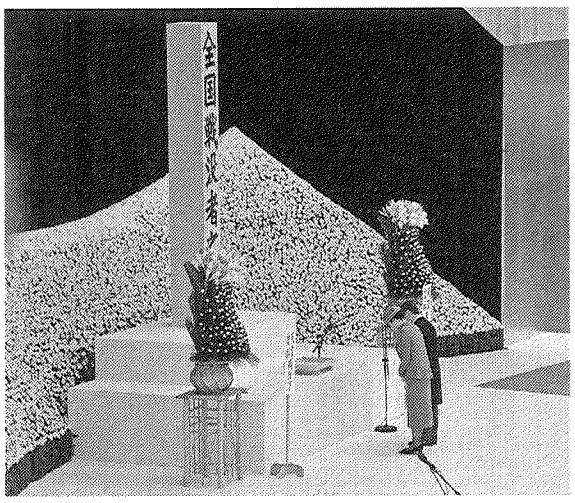
日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

全国戦没者追悼式

深い悲しみを新たに
天皇皇后両陛下ご臨席

終戦から78年を迎えた8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式は、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ挙行された。新型コロナの感染症法上の分類引下げから初の開催となったが、台風7号の影響により10府県が参加を見合わせ、参列者は1855人となった。最高齢は104歳の戦没者の妻から最年少7歳のひ孫まで幅広い世代が戦没者に祈りをささげた。

全国戦没者追悼式は、今年も新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、参列者数の制限、会場内の座席の間隔を空けるなどの対策が講じられた。また参列できなかった遺族のために、式典の模様が動画配信サービス（YouTube）で生配信された。


戦没者に黙とうを捧げる天皇皇后両陛下＝8月15日、日本武道館で

式典は、加藤勝信厚生労働大臣の先導で両陛下が式檀に着かれ、国歌が演奏され、始まった。

続いて岸田文雄内閣総理大臣が登壇し、式辞で「今日の我が国の平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであることを、私たちは片時たりとも忘れません」と述べた。その上で、ご遺骨の収集に触れ、国の責務として、集中的に実施し、一日も早く故郷にお迎えできるよう全力を尽くすと決意を語り、戦争の惨禍を二度と繰り返さないとの不戦の誓いを新たにした。

その後、両陛下が「全国戦没者の霊」と書かれた標柱の前に進まれ、正午の時報に合わせて参列者とともに戦没者へ黙禱を捧げられ、天皇陛下がおことばを述べられた（別掲）。

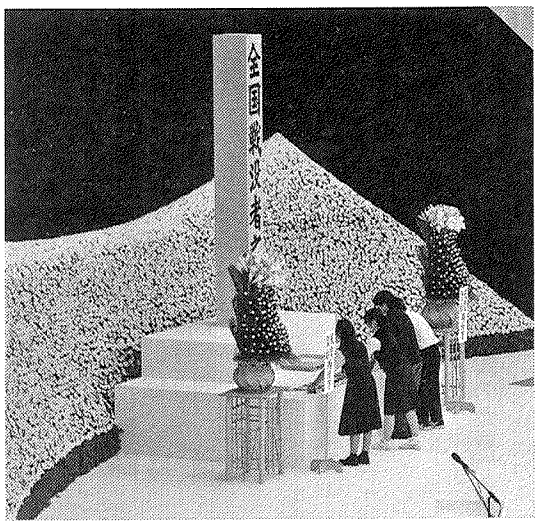
次に、遺族を代表して昭和20年5月に中国で父親を亡くした横田輝雄さん（熊本県遺族連合会理事長）が追悼の辞（別掲）を述べた。

また尾辻秀久参議院議長（本会名誉顧問）は、参院議長の式辞の中で、過酷な戦後を遺族は肩を寄せ合い生き抜いてきたと語り、絶対に戦争を起こさないために、記憶を語り継ぐとの決意を語った。

天皇皇后両陛下が御退席された後、参列者が式檀に菊の花を手向け、戦争の犠牲となった310万余の御霊の冥福を祈った。

当日は、台風7号の影響により、10府県の遺族が心ならずも参列を見合わせた。また、参列者の7割強が70歳以上、父母の参列は平成23年から途絶え、参列者の高齢化は否めないが、戦没者の妻からひ孫まで、幅広い世代が参列した。

今後も追悼式の意味を伝えるべく、遺族には、親・子・孫等、家族での参列を働きかけたい。


献下する青少年代表＝8月15日、日本武道館

天皇陛下おことば

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来78年、人々のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

これからも、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

追悼の辞

本日ここに、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、各界代表をはじめ全国各地から遺族の代表が集い、全国戦没者追悼式が厳粛に執り行われるにあたり、戦没者遺族を代表し、謹んで追悼のことばを申し上げます。

先の大戦の終結から七十八年目を迎えました。

父は昭和十九年四月、最愛の家族の安寧を祈りつつ、我が身の危険を顧みず、祖国の安泰と平和を願い出征して行きました。

母は三番目に産まれた妹の事を知らせる為、何度も手紙を書きましたが父のもとに届くことはなく、父は子の顔も知らず昭和二十年五月、中国の地に於いて無念の死を遂げました。

愛する家族を失った私たち遺族の悲しみは深く、心が折れそうになる時もありましたが、お互いに助け合い励まし合いながら懸命に生き抜いてまいりました。

私たち遺族は、今日の平穏な生活が享受できますことは戦没者の尊い犠牲の礎の上に築かれたものであることを決して忘れてはなりません。

しかしながら世界の情勢に目を向けてみますと、依然として紛争が絶えることはなく幾多の尊い命が犠牲となり、ひいては飢餓や貧困をもたらしています。

特に、今般のロシアによるウクライナへの侵攻は、言語道断の行いであり、現地の惨状を目の当たりにするにつけ、かつての戦争を思い出さずにはいられません。

こうした状況の中、我が国が平和の実現に向けて果たすべき役割は決して小さくありません。

そして私たち遺族は戦争の悲惨さと平和の尊さを孫、ひ孫の世代へと永遠に語り継ぐことを英霊にお誓い申し上げます。

本日は、多くのご来賓の参列のもと、かくも厳かに追悼式を挙行していただきましたことに遺族を代表して心から感謝申し上げます。

結びに、ご英霊のご冥福と、ご参列の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして追悼のことばといたします。

令和5年8月15日
全国戦没者遺族代表　横田輝雄

支部長交代

香川県で役員改選が行われ、新会長が就任した。

▼香川県遺族連合会　三谷　等氏（8月1日付）

声なき声

全国的に異常な猛暑は、「線状降水帯」を発生させ、今年も各地に甚大な被害をもたらした。天気予報のたびに各地のご遺族の顔が思い浮かんだ。英霊が夢見た家族、全国津々浦々の美しい故郷はいつまでもそのままであってほしい▼本会の活動は例年以上に注目を浴び、多くの取材を受けた。（3面参照）水落敏栄会長の目指す遺族会の展望が、各社の考えに合致したからだろう。一端を紹介したい▼民間建立慰霊碑について「遺族は移設ではなく、保存を願っている。祖国の平和を願った英霊を忘れないために建立された慰霊碑、忠霊塔は、その歴史を踏まえ、召集に係わった責任において国や自治体が永続的に管理すべきだ。その上で現実的に管理できる数に集約・統合するため、地方自治体や地域と協議できるのは遺族会しかない」また、戦争の記憶と教訓の継承について、「戦後80年にむけて、戦争の風化を防ぐため、戦中戦後の体験を語り継ぐ平和の語り部を事業化し、全国的に実施する。今後の遺族会活動の核となる本事業を青年部と共に活動する中で、遺族会組織の継承に取り組んで行く」との決意を語った▼戦後80年に向けた取り組みは英霊に恥じない国造りだ。いざ、組織一丸となって目標達成に熱く取り組もう。（M）

令和六年　靖國暦

靖國神社では毎年『靖國暦』を頒布しています。

本暦は、昭和二十三年から発行しているもので、嘉永六年から明治・大正・昭和の「御祭神ゆかりの主な出来事」を月毎に掲載しております。

座右に置かれて、日々ご活用戴きたく存じます。

好評頒布中

●体裁：B6判　●頁数：四十八頁
●編集発行：靖國神社社務所

主な内容
○靖國神社の由緒　○人生儀礼の説明
○靖國神社の祭事暦　○手水・玉串拝礼の作法
○家庭のみたままつり　○全国の護國神社一覧
○年中行事と節気　○年齢早見表

頒布価格
一部 三〇〇〇円（送料一二〇円）
※三〇〇部以上取りまとめの場合は割引となります。
※二部以上の送料はお問い合わせ下さい。

お申し込み方法
「はがき」または「FAX」にて部数・郵便番号・住所・氏名・電話番号をご記入の上、お申し込み下さい。
※暦と同封の払込取扱票にてご送金下さい。

お問い合わせ・お申し込み
靖國神社社務所　祭儀課
〒102-8246 東京都千代田区九段北 三－一－一
電話：03（3261）8326（代表）
FAX：03（3261）8320（直通）

議連が集団参拝を実施

靖国　みんなで

参拝者減少歯止めきかず

超党派「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」（みんなで靖国議連）は、78回目の終戦の日にあわせ、集団参拝した。新型コロナが感染症法上2類から5類の扱いになるなどの社会的変化を受けて、今回より代理参拝も可能となったが、議員本人67人、代理40人の参拝となった。参拝者数の減少に歯止めがきかない状況が顕著化された。

議員本人参拝67人のみ

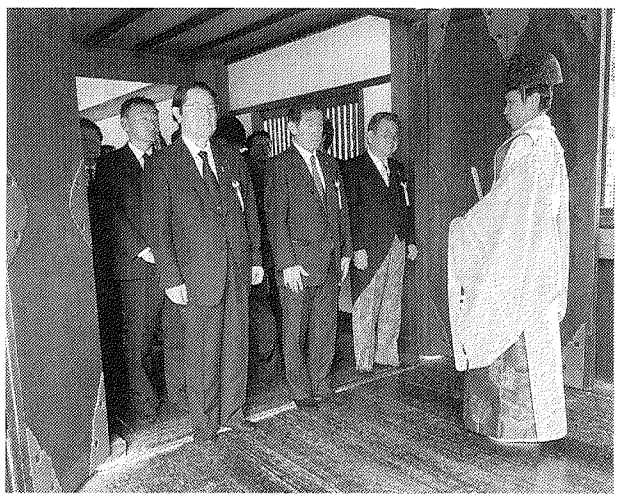
戦没者を追悼し平和を祈念する日である8月15日にみんなで靖国議連が集団参拝するのは、昭和56年の同会結成以来、新型コロナのため中止された令和4年を除き42回を重ねるが、議員本人の参拝者数67人は、歴代ワースト3位であるが、これまでのワースト上位は総選挙中の平成8年、15年を考えれば、事実上の歴代最小数といえる。

また、秘書等の代理参拝者も40人は歴代最も少なく、議員および秘書の英霊への理解が足りないことが如実に表れている。なぜなら、議員の場合、同日開催される地元の追悼式および慰霊祭に参列している可能性もあるが、議員秘書であれば、在京している可能性が高く、8月15日に行われる同会の参拝がどのような意味があるのか理解していれば、参拝しないはずはない。たとえ国会閉会中でお盆期間であったにせよ、参拝しない理由にはならない。

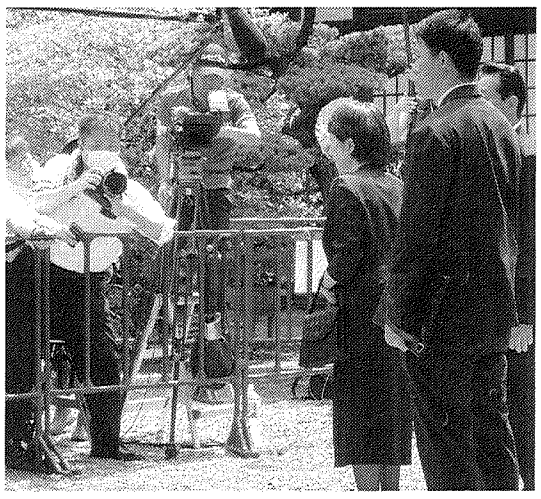
同日の閣僚の参拝は、高市早苗経済安全保障担当相のみにとどまったことも、深刻な事態だ。（この他、8月21日、西村康稔経済産業相参拝）

我が国の平和の礎となられた英霊に感謝できないものに、国家・国民の代表たる資格があるのか、本会は大いなる危機感をもって英霊顕彰の意味を説き続けなければならない。

まずは、靖国神社の秋の例大祭への参拝を働きかけるべく、本部支部は自由民主党選出国会議員に対し要請を重ねる予定である。



昇殿参拝に向かう「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」と水落敏栄本会会長＝8月15日、靖国神社で



閣僚で唯一8月15日に参拝した高市早苗経済安全保障担当相が報道陣の取材にこたえる＝靖国神社で

みんなで参拝　衆・参国会議員

「みんなで靖国神社に参拝する国会議員」で参拝した67人の衆・参議員は次のとおり。

（党派別、敬称略）

▼衆議院

【自由民主党】逢沢一郎、石原宏高、石原正敬、井上信治、衛藤征士郎、大串正樹、大西英男、奥野信亮、尾崎正直、梶山弘志、岸信千世、木原稔、櫻田義孝、新谷正義、杉田水脈、鈴木英敬、高鳥修一、田畑裕明、田村憲久、土田慎、長坂康正、中野英幸、野中厚、平井卓也、平沼正二郎、細田健一、三ツ林裕巳、宮内秀樹、武藤容治、山口俊一、山本有二、若林健太

【日本維新の会】青柳仁士、池下卓、一谷勇一郎、奥下剛光、小野泰輔、中司宏、堀井健智、三木圭恵、和田有一朗

▼参議院

【自由民主党】青山繁晴、赤池誠章、有村治子、石井正弘、臼井正一、衛藤晟一、梶原大介、加藤明良、北村経夫、佐藤信秋、佐藤正久、山東昭子、豊田俊郎、長峯誠、堀井巌、松村祥史、松山政司、三宅伸吾、宮本周司、山谷えり子、山本啓介

【日本維新の会】青島健太、東徹、梅村みずほ、鈴木宗男

【政治家女子48党】浜田聡

組織継承3カ年計画

アンケート結果と今後の展開

前号に続き、「戦後80年に向けた組織継承策」の実行に向けたアンケート結果をお伝えする。

3．今後の展開

(2)内容

内容については、①遺児等の体験、②青年部の体験、③遺族会の歴史及び護国神社や忠霊塔の創建の由来を伝える3本柱とする。いずれも比較的活動しやすいものから難易度の高いものを提案し、まずは、多くの会員が活動を始めることを目指す。

①遺児の体験を語り継ぐ

遺児の体験を本人が話すかたち、既に発刊されている遺児の体験集から抜粋し、作者ではない遺児及び青年部が講話者となるかたち、遺児の体験集を写真やイラストを加えた資料として作成し、遺児及び青年部が朗読するかたち、資料として配布するかたちを提案する。

体験を話す講話者にも写真等を使用した資料を用いることを提案する。この資料作成は青年部に力を借りたいと考えている。

【内容の概要】遺児、青年部の体験談のステップは同様。

誰もが一歩を踏み出せるために、比較的取組みやすいものから、講話者となる最終系に向けて、4段階とする。

ステップ1

遺児及び青年部等の体験集に写真や絵をつけて資料として配布。

ステップ2

ステップ1で作成した資料を追悼式等の機会を利用して配布し、朗読する（遺児、青年部どちらが朗読者となってもかまわない）

ステップ3

遺児等の体験集をもとにした講話（動画とすることも一案）

既に各都道府県支部に存在する遺児の体験集をもとに、内容に見合った写真等を活用し、遺児及び青年部が講話する。講話を担当するものの話でなくてもかまわない。パワーポイント（スライド）の資料制作など、青年部が協力する。

ステップ4

遺児および青年部による学校等での講話のためのオリジナルによる講話

②青年部の貴重な体験を話す

青年部が、遺族会活動に参画したいと思わせるような「心揺さぶられる」体験をしてもらい、（いわゆる慰霊友好親善事業の付添体験、遺骨収集等）その体験談等を話すかたち、体験談に写真やイラストを付けた資料とし朗読するかたち、体験談に写真やイラストを付けた資料を配布するかたちを提案する。

体験を話す講話者にも写真等を使用した資料を用いることを提案する。この資料作成は青年部複数人で作成することを提案したい。

③遺族会の活動の歴史、護国神社や忠霊塔の創建の由来を伝える

遺族会の活動の歴史や護国神社、忠霊塔の創建の由来を伝える資料を作成し、参拝者に話すかたち、配布するかたち、ホームページ、機関誌に掲載し周知するかたちを提案する。

資料の作成には、遺族の精神的支柱であり、遺族会活動にご尽力いただいている護国神社の協力を仰ぎ、青年部に担ってもらう。

【遺族会の活動の歴史、護国神社や忠霊塔の創建の由来を伝える】

ステップ1

遺族会の歴史、護国神社や忠霊塔の創建の由来をホームページ、機関誌へ掲載（過去に刊行された遺族会記念誌等の特に伝えたい部分を抜粋）

ステップ2

護国神社の参拝者へ遺族会の活動の歴史、護国神社や忠霊塔の創建の由来を伝える（簡単なチラシを作成し、資料として配布）

（次号へ続く）

第47回慰霊大祭を斎行

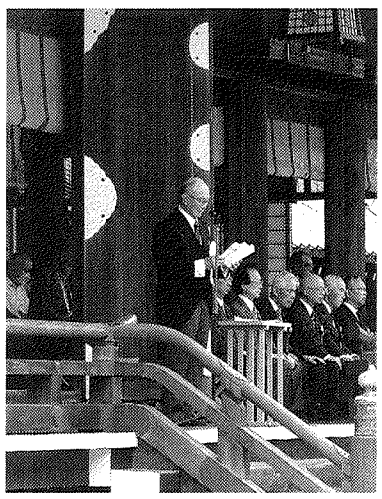
英霊にこたえる会主催

英霊にこたえる会主催の「第47回全国戦没者慰霊大祭」が8月15日、午前9時から靖国神社拝殿及び本殿で斎行された。今年は新型コロナウイルス感染症防止対策も緩和され、令和元年以来制限のない状況での開催となった。

大祭には水落敏栄本会会長をはじめ自衛隊の統合・陸上・海上・航空幕僚長（各代理）、中央参加団体代表など約65人が参列した。

大祭は国歌斉唱、修祓、献饌に続いて、斎主の祝詞奏上、そして、古庄幸一英霊にこたえる会会長が祭文を奏上した。

また、本会を含む23団体からの供花が供えられ、岡山県笠岡市遺族連合会からは「千羽鶴」が奉納された。



祭文を奏上する古庄幸一英霊にこたえる会会長＝8月15日、靖国神社で

日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

●郵便振替　00130-2-694929

●みずほ銀行　九段支店　普通預金　0980930

※口座名は：一般財団法人日本遺族会＝ザイ ニホンイゾクカイ

地方だより

各支部遺族会で実施された大会等は次の通り。

▼山形県　6月10日
山形県遺族会青年部ブロック会議（40人）

▼山口県　6月18日
令和5年度山口県戦没者遺族大会（200人）

▼奈良県　6月18日
奈良県遺族会青年部総会（17人）後、市町村会長、女性部役員と共に合同研修会（41人）

▼岩手県　6月26日
令和5年度岩手県遺族連合会研修会（150人）

▼新潟県　6月29日
戦没者遺児の集い（46人）

▼徳島県　7月8日
第84回語り部事業（60人）

▼徳島県　7月15日
徳島県遺族会特別研修会（250人）

▼宮崎県　7月23日
地区会長・女性部長・青年部合同研修会（110人）

令和6年度 政府予算

来年度概算要求を公表

厚労大臣、財務省等に陳情

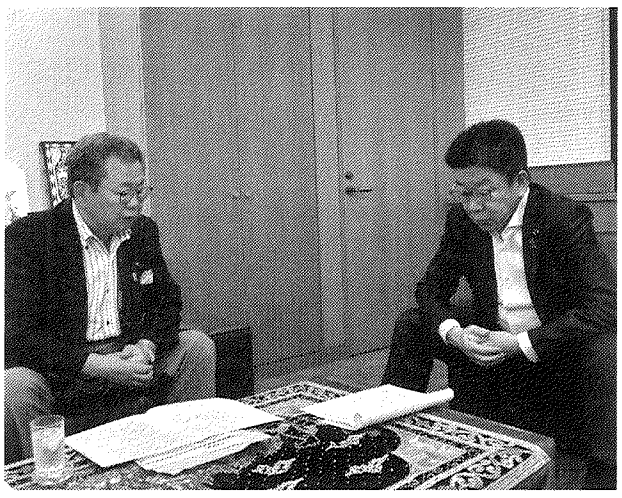
令和6年度政府予算編成の概算要求にむけ、加藤勝信厚生労働大臣および、財務省担当者に水落敏栄会長が相次いで面会し、来年度予算に対する本会の要望を説明した。最大の懸案である組織継承策の柱「平和の語り部」の事業化の実現について、両省とも理解が示され、概算要求において新規事業として2500万円が計上された。

「平和の語り部事業」

新たに2500万円が計上

水落敏栄会長は、令和6年度政府予算に対する本会の要望事項（別掲参照）の実現のため、8月3日、財務省主計局を、8月14日、加藤厚労大臣を相次いで訪ねた。

最重点項目として説明したのは、遺族会の「平和の語り部」事業の新設、国内及び海外の民間建立慰霊碑の維持管理への支援（補助費の増額、再調査、自治体による永続的な管理）についてである。



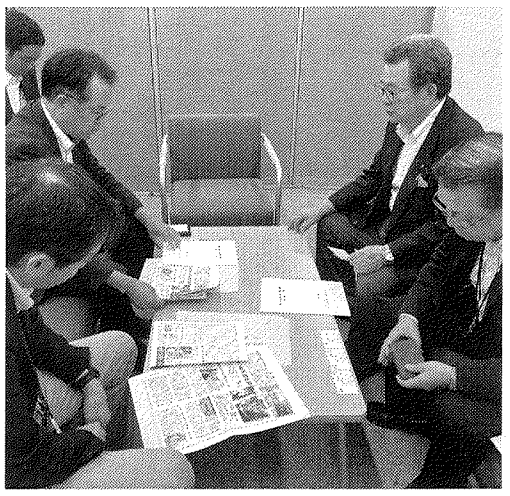
令和6年度要望事項について加藤勝信厚労大臣に陳情する水落敏栄本会会長＝8月14日、厚生労働省大臣室で

地域の学校等の依頼により、各都道府県及び市区町村遺族会で草の根的に広がった「平和の語り部」活動は、主に小中学校で戦没者の遺児等の戦中戦後の体験談を各地域の歴史を交え伝えることを通して、戦争の悲惨さ、平和の尊さを考える機会とするもの。そのニーズは年々高まっており、地域、回数は増加の一途をたどっており、その活動を担うのは遺族会に他ならない。故に戦争の記憶を次世代へ繋ぎ、恒久平和を考える機会を与える遺族会の「平和の語り部」活動を全国展開すべく、国の補助及び委託事業とすることを強く要請した。

また国内外の民間建立慰霊碑についても、平和を伝えるシンボルとして国、地方自治体による永続的管理を目指し、再度調査を要望した。

面会した加藤厚労相からは、地域の歴史に立脚した遺族会の語り部には大変意義があるとの見解が示され、財務省からも同様の理解が示された。

8月31日、政府は令和6年度予算の概算要求を公表した。（詳細は別掲）本会の最重点項目であった平和の語り部事業は新規事業として2500万円が計上された。



財務省の端本秀夫主計局主計官に要望事項を説明する水落会長＝8月3日、財務省で

本会要望を大手紙が掲載

平和の語り部、民間建立慰霊碑事業

終戦の日にむけて、例年通り本会に対し、報道機関による取材が相次いだ。本年の特色は、国内外の民間建立慰霊碑についての問い合わせが集中したことである。

海外の民間建立慰霊碑については、5月半ばに、中日新聞社より申込があった。担当記者は、マニラ新聞記者として比島で生活する中で、民間建立慰霊碑の存在を知り、独自に調査し、帰国後、中日新聞社において慰霊碑の現状を記事として紹介すべく何年も模索していたとのことで、緻密な取材がうかがい知れ熱意が感じられた。取材は複数回にわたり、7月25日、同社の1面の紹介に加え、3面全面で特集され、東京新聞など複数の紙面で紹介された。

また、国内民間建立慰霊碑については、読売新聞（地方局2社含む）、産経新聞、地方紙1社からの取材があった。中でも、読売新聞本社は、論説委員からの水落会長への取材申込に始まり、複数回に亘り取材を受けた。

当初より本会の活動に理解があった委員により、永続的な民間建立慰霊碑の維持管理のために、高齢の遺族に任せるのではなく地方自治体が積極的に関与すべきであり、そのうえで、現実的に管理できる慰霊碑の集約統合については、遺族、地方自治体が話し合う機会を設けるべきとの在り方を示し、高齢の遺族が元気なうちに行うべきとの記事が8月22日の社説として掲載された。本会の要望が社説に掲載されたことは異例である。

そして、過去に例を見ない記事としては、8月28日、産経新聞朝刊1面に、『日本遺族会が「平和の語り部」事業強化―戦後80年の令和7年度までの3年間で』とのタイトルで紹介されたことだ。この記事は、水落会長から取材時に聞いた遺族会の平和の語り部構想に共鳴した記者によるもの。ウェブでも紹介され大きな反響を呼んだ。

翌8月29日の加藤厚労大臣の定例記者会見において、同記者による遺族会の語り部事業化の重要性、予算化に向けた見通しの質問を受けた加藤大臣は遺族会が全国的に語り部を取り組むことを評価するとともに、予算化に向け調整していることを明かし、語り部事業の予算化に大いに追い風となった。

今後も遺族会の活動に興味を持ち、好意的に発信してもらえるよう、一層広報に努めたい。

令和6年度　遺族処遇改善項目

恩給法関係	
1 恩給費	709億円
厚生労働省関係	
1 援護年金	31億2,400万円
2 各種特別給付金・特別弔慰金の支給（支給事務費）	8億円
3 遺骨収集事業等の推進	36億2,100万円
(1) 遺骨収集事業	28億900万円
(2) 海外公文書館の資料収集	1,700万円
(3) 遺骨の鑑定	7億5,800万円
・手掛かり情報のない戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定	(2億4,500万円)
・戦没者遺骨の鑑定技術の研究・実用化検討	(2億8,400万円)
・分析施設（ラボ）における鑑定実施	(2億2,300万円)
・会議開催経費・事務費等	(600万円)
(4) 遺骨・遺留品の伝達	3,700万円
うち、戦没者等の遺留品の返還に伴う調査一式	(1,700万円)
4 戦没者慰霊事業等	6億6,000万円
(1) 全国戦没者追悼式挙行経費	1億9,900万円
(2) 慰霊巡拝等	4億6,100万円
・慰霊巡拝	(1億400万円)
・政府建立慰霊碑の補修等	(5,300万円)
・海外・国内民間慰霊碑の管理	(1,900万円)
海外民間建立慰霊碑	(1,000万円)
国内民間建立慰霊碑	(900万円)
・慰霊友好親善事業	(2億5,900万円)
・平和の語り部事業（新規）	(2,500万円)
5 昭和館事業	5億1,800万円

※　百万円単位で四捨五入している。

遺児の参加者募集

付添者（青年部）に補助

戦没者遺児による慰霊友好親善事業では、参加者を募集している。

本年度より次世代青年部へ戦争の記憶を語り継ぎ、育成することを目的として、戦没者の孫、ひ孫、甥、姪（青年部）が遺児に同行する場合には、国より3分の1の補助（※1）が受けられることとなった。

一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。

募集要項は次の通り。

▼時期及び地域　実施計画概要参照。

▼参加費　10万円。

※東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの交通手段は自己手配、移動に係る交通費、宿泊費等は自己負担となる。

▼参加資格　戦没者の遺児。（周辺公海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る）

▼申込方法　在住する各都道府県遺族会事務局へ。

事前に申込書を取り寄せ、不明な点（戦没者の部隊等）は各遺族会に相談し、全て記入した上で提出願いたい。（資格審査に必要なため）申込多数の場合は選考となる。

なお、実施地域、時期等は、相手国の情勢や交通機関、新型コロナ等により変更、延期、中止となる場合があるので、了承願いたい。また、参加者の高齢化に考慮し、看護師が同行する。

※1　青年部付添者の補助は遺児の参加費からではなく、旧戦域での旅行費用（実費）に対する補助となる。

実施計画概要

（広域地域/特定地域）

	実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1	台湾・バシー海峡	令和6年 1月12日～1月18日	40人	11月9日
2	東部ニューギニア（特定地域）	令和6年 2月1日～2月8日	36人	11月28日
3	西部ニューギニア（特定地域）	令和6年 2月13日～2月22日	36人	12月8日
4	ミャンマー（特定地域）	令和6年 2月22日～3月1日	36人	12月21日
5	マーシャル・ギルバート諸島	令和6年 3月2日～3月10日	40人	11月1日
6	フィリピン（2次）	令和6年 3月8日～3月15日	120人	1月7日
7	中国	令和6年 3月21日～3月29日	80人	1月20日

※マーシャル・ギルバート諸島地域については、申込締切が実施予定日の4ヵ月前となる。

本会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申しあげます。

なお、賛同者の都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合があるため、省略します。

賛同者名（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）

澤井園子、木瀬洋、山本義男、内田利彦、平子かなえ、キノシタミチヤ、ミヤウチマイ、コガトシロウ（以上、8月1日から8月末日まで）

皆様からいただいた賛助金は、英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業等のさまざまな遺族会活動に利用させていただいています。

硫黄島遺骨収集派遣団帰還
遺骨17柱を厚労省へ引き渡す

日本戦没者遺骨収集推進協会（推進協会）は、7月25日から8月10日まで硫黄島戦没者遺骨収集第1次派遣を実施し、本会からは6人が参加協力した。令和5年度最初の同島の派遣では、収容した17柱を本邦へ奉還し、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で挙行された遺骨引渡式で、参列者が見守る中、派遣団員から厚生労働省職員へ引き渡された。

硫黄島戦没者遺骨収集第1次派遣団は、本会からの派遣者6人を含め、硫黄島協会、小笠原村在住硫黄島旧島民の会、JYMA日本青年遺骨収集団等社員団体の参加者総勢32人の団員で構成された。

今回の派遣では、推進協会と本会をはじめとする関係社員団体との打合せで、これまでのフォローアップ調査における面的調査で発見した壕や地表等から、事前に収容する場所を選定した。

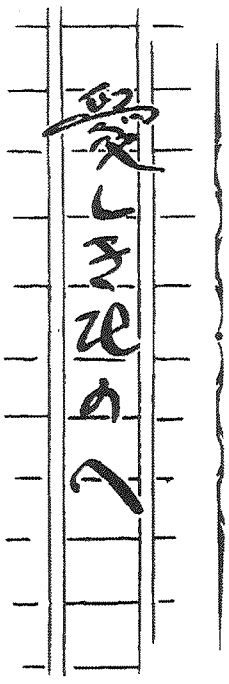
派遣団は選定された場所を基に、南部落近辺の外周道路外側の地表8カ所と壕3カ所を3班に分派して収容作業を行い、遺骨の所在確認を行った結果、6柱の遺骨を収容した。

派遣団は8月9日、今回収容した遺骨6柱と、これまでに滑走路地区、北飛行場跡付近等で収容され、仮安置されていた遺骨11柱とあわせ17柱を本邦へ奉還した。

翌10日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で引渡式が挙行され、参列した多くの関係遺族、国会議員等が見守る中、派遣団は厚生労働省へと遺骨を引き渡した。また、本会を代表して水落敏栄会長が献花した。

なお、新型コロナウイルスが5類に引き下げられたことに伴い、今回の派遣から航空機、宿舎の確保ができるようになり、派遣人員も増員されており、本会は引き続き推進協会への派遣協力を積極的に推進していく。

南部落の壕内の遺骨を収容する団員＝硫黄島で



今夜は十五夜です

陸軍伍長　内藤　清五郎

昭和十六年十二月十九日
中華民国にて戦死
静岡県志太郡大洲村出身　二十三歳

御無沙汰し申し訳ありません。今夜は九月六日十五夜です。
皆様も元気で暮らして居る事と思ひます。
小生も相変はらず元気で暮らして居ます。御安心ください。
内地も寒いことでしやうね。又、色々の仕事で忙しかつた事と思ひます。家の人達も体を大切にね。南支も相変はらず照つて居ます。
山の上で見ると田畑が青々と見えます。
そして今夜は十五夜です。村の祭の事を思ひ出して書いたのです。
夜十一時頃まで戦友と月を眺めて、話をして居たのです。
又、三年前の事など色々と話をして居たのです。
今年の祭は何かやりましたか。小生も祭を思ひ出して月を眺め書きました。家の人達の顔が月に映つて居ました。元気で暮らして居るようですね。又、小生も内地の風に居つ吹かれる事と思つて居ます。家の人達元気で暮らすよー。

※「南支」は中華民国南部の地域

【令和五年九月靖国神社社頭掲示【愛しきものへ】】

寄せ書き日の丸返還
北海道、滋賀県で

戦没者等の遺留品返還に伴う調査事業で、アメリカの非営利団体OBONソサエティから本会に照会があった日章旗が、北海道と滋賀県で遺族に返還された。

北海道の苫前町出身で、昭和20年6月22日に沖縄で戦死された加藤馨さん（享年24歳）の日章旗が、8月10日に、北海道苫前神社で開催された返還式で遺族に引き渡された。

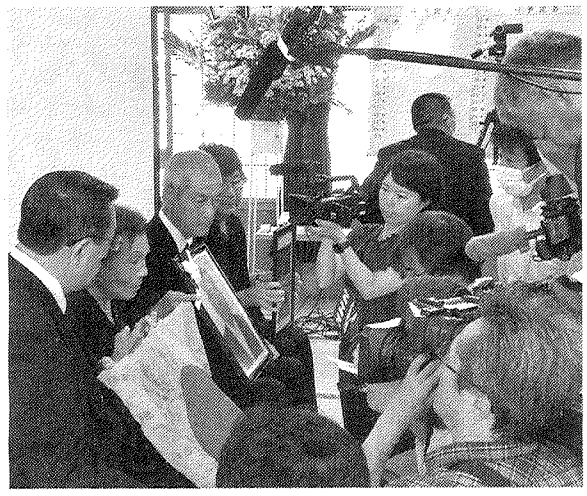
加藤さんの日章旗には、出征時に弟の等さん（96歳）の名前と「がんばれ」のメッセージが書かれていて、遺族を特定する重要な手掛かりになったが、等さんは返還を前に、今年7月に亡くなった。

日章旗は等さんの妻のチヤさん（91歳）に引き渡され、チヤさんは旗を手にして「夫がもう少し生きていたら会えたのに。形見が帰ってきて胸がいっぱいです」と話した。

滋賀県では、旧永源寺村（現東近江市）出身で、フィリピンのレイテ島で戦死された門阪庄平さん（享年22歳）の日章旗が、遺族に返還された。

8月26日に大津市で挙行された平和祈念滋賀県戦没者追悼式にあわせて遺留品返還式が執り行われ、今堀治夫滋賀県遺族会会長、OBONソサエティサポーター國松善次元滋賀県知事ら参列者650人が見守る中、日章旗が庄平さんの弟の杢平さん（92歳）に、三日月大造滋賀県知事から手渡された。

日章旗を受け取った杢平さんは、兄を見送った日のことを鮮明に覚えており、「今やっと、終戦を迎えられたような気持ちです。兄の帰りを待っていた父と母の仏壇に早速供えます」と涙ぐみながら謝辞を述べた。


受け取った日章旗を掲げメディアの取材に応じる加藤チヤさん＝8月10日、北海道で

静岡県遺族会が上京参拝

9月3日、静岡県遺族会が上京し、大石功会長はじめ76人が揃って靖国神社に昇殿参拝した。参拝後は千鳥ヶ淵戦没者墓苑を訪れ、墓苑に眠る戦没者の冥福を祈り、拝礼した。

新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が緩和され、今後はさらに多くの遺族会が靖国神社参拝を再開することが見込まれる。

—*—*—*—

九段会館テラス内にある日本遺族会事務局は、昼食、研修などの場として利用できる会議室を完備しているので、靖国参拝等で上京の際には、ぜひご利用ください。（問合せ・本会福祉係03-3261-5521）

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報は「個人情報保護法」の定めに則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

本会主催

戦跡巡拝参加者募集
フィリピン地域を実施

本会主催のフィリピン戦跡慰霊巡拝の参加者を募集している。組織継承者である青年部の育成強化を図るため、遺児等とともに戦域を巡り、現地での慰霊祭を通して「心揺さぶられる体験」をしていただきたい。

募集要項の概要は次のとおり。

▼実施時期　令和6年3月11日(月)～15日(金)　4泊5日
▼実施地域　ルソン島班（マニラ東方山地、クラーク等）、レイテ島班（タクロバン、リモン峠、カンギポット山等）の2班を予定
▼募集人員　各班15人（予定）
▼参加資格　フィリピンで肉親が戦没した関係遺族
※フィリピン地域以外の遺族の青年部員で、戦跡巡拝を経験したい方も参加可能
▼参加費用　ルソン島班30万円程度、レイテ島班35万円程度を予定
▼申込締切　令和5年12月25日（月）
▼申込方法　申し込みは在住する各都道府県遺族会の事務局へ

昭和の暮らしの資料展示
徳島県で特別企画展

徳島県遺族会は、徳島県戦没者記念館「—あしたへ—」で、7月30日から8月15日までの間、第15回特別企画展「昭和の暮らし～戦中・戦後の人々～」を開催した。

特別企画展では、戦中・戦後の暮らしを、昭和館から提供された貸出キット（昭和館の常設展示室の内容をコンパクトにまとめたもの）を使って写真やパネルを展示し、また戦争体験者のビデオ上映も行った。

会期中は、多くの児童、生徒も来館し、戦没者の遺品、召集令状や千人針、防空頭巾などを真剣な面持ちで見入っていた。当時の庶民の労苦を伝え、平和の尊さを改めて考える機会とすることを目的とした企画展には約600人が来場した。

九段短歌再開へ
作品をお寄せください

令和4年1月号から長らく休載しておりました「九段短歌」を再開する予定です。

新たに、靖国神社権宮司・村田信昌氏を選者に迎え、準備を進めておりますので、読者の皆様の作品を本紙宛にお寄せください。

送付先　〒102-0074　千代田区九段南1-6-5九段会館テラス4階日本遺族会事務局

◎作品には必ず住所、氏名を明記してください。なお、お寄せいただいた作品の返却はいたしませんので、予めご了承願います。